

“MY TOWN” うおっちゃんで

歩キ目デス & 足ラテス

Vol.59

レクイエム・西条市体育館

岡崎 直司

タウンツーリズム講座主宰・
ヘリテージマネージャー



★坂倉準三とモダニズム建築、小年表

- M34(1901) 坂倉準三 岐阜の造り酒屋に生まれる。
- S 4(1929) 坂倉、フランスに渡る。
- S 6(1931) コルビュジェの事務所に入る。
- S 12(1937) パリ万博日本館でグランプリとなる。
- S 15(1940) 帰国し、坂倉準三建築研究所設立。
- S 26(1951) 「神奈川県立近代美術館」完成、代表作となる。
- S 30(1955) コルビュジェ来日、「国立西洋美術館」設計契約。
- S 33(1958) 愛媛県では今治市役所・公会堂(丹下健三)・日土小学校(松村正恒)・旧広見町役場(アントニン・レーモンド事務所)などが相次いで完成する。
- S 34(1959) 国立西洋美術館、完成。(東京タワー完成、ビートルズ結成)
- S 36(1961) 西条市体育館、完成。
- S 39(1964) 国立屋内総合競技場(丹下)完成。(東京オリンピック)
- S 40(1965) 今治市民会館(丹下)、完成。
- S 41(1966) 新宿西口広場(坂倉)、完成。
- S 44(1969) 坂倉準三、没。享年68歳。



それは、筆者がまだ小学校4年生頃の事だった。転校して初めて住む事になったその町には、何やら奇妙な形の建物が田んぼの中に見えていた。その頃周囲に高い建物は無く、白く輝くそれは遠目にはまるで宇宙船のようにカッコ良く思われた。

その町には2年程しか居なかったのですが、記憶は薄れ、その建物が坂倉準三の設計した名建築だと気付いた頃には、私はもういい年になっていた。



西条市体育館、昭和36年竣工。そう、少年の心象風景となったあの頃は、真新しく完成して間もない時期だったのだ。でも残念ながら、先ごろ解体となつてしまひ、既にその雄姿は見られな。惜しみて余りあるその建物の、せめて残像なりを記録しておきたい。

建物全体のフォルムは、水兵さんの帽子のようでもあり、形容し難い存在感があった。RC打ち放しの力強いボリューム感と安定感。屋根は三次曲線を描き、まだ構造数値が手計算だった時代にどうい構造計算をしたものか、という複雑な収まり。よく見れば、何枚ものコンクリートの板壁が周囲に並び、そこから鋼線が縦横に張られ(内部からそれが解る)、見事な吊り屋根の構造美となっている。

内部に入れば、やはり屋根形状がそのまま迫力のある天井となつて

覆いかぶさる。しかも赤く塗装されているから、そのインパクトは強烈な印象として見る者を圧倒する。何という造形力。カメラを向けていると、様々な画角で写真欲が次々と湧いてくる。

半世紀も前にこうした斬新な設計をした坂倉準三という人物についても迫る必要がある。明治34年に岐阜の造り酒屋に生まれ、東京帝大の美学美術史学科を卒業した後に渡仏、昭和6年念願のル・コルビュジェの事務所に入る。彼は、先に所員となった前川國男の紹介もあって、かの建築界の巨匠ル・コルビュジェに直接師事する事が出来るまたとなしチャンスに恵まれた。丁度その頃のル・コルビュジェは、前年にロンシャンの教会が完成し、坂倉の入った1931年にはかのサヴォア邸が完成するので、まさに巨匠としての名

声が確立する時期でもあった。そうした時代の熱を浴びる運命的なタイミングもあったものか、昭和12年（1937年）に開催されたパリ万博において、坂倉の設計した日本館の建設は日本人初のグランプリに輝く。そうして同15年（1940年）に帰国、坂倉準三建築研究所を設立、同26年（1951年）には氏の代表作となる神奈川県立近代美術館が完成する。

また、同34年（1959年）になるとル・コルビュジェの設計した国立西洋美術館が東京上野に竣工する。

師は、計画段階で一度来日しただけだったが、弟子の前川、坂倉、吉阪隆正の三人が完成させた建物であり、現在では世界に点在するル・コルビュジェ作品と合わせて世界遺産への準備がなされている。

一方、その頃のモダニズム建築を愛媛県内で見ると、前年昭和33年には丹下健三の今治市庁舎と公会堂、松村正恒の日土小学校（第一期）、ア



が目白押しだった。しかもこの中で面白いのは、丹下もレーモンドも勿論坂倉もル・コルビュジェの影響下にあり、松村も他の作品ではル・コルビュジェを意識したものがある。加えて中でも、ル・コルビュジェらしい構造表現主義と呼ばれるダイナミックスさにおいては、西条市体育館が最も顕著だった。後に丹下は、同39年に国立屋内総合競技場、つまりは東京オリンピックに際して代々木のプール・体育館を世に出し世界をアツと言わせる事になるが、それに劣らぬアクロバティックな構造美の建築が西条市体育館であった。

いつも名建築の消滅の際に想う。誰のせいと言うよりは、行政にしる市民側にしろ、そうした価値の証明と啓もうが普段から如何に重要で不可欠か。どんなものでも、知られていないものは、アツと言う間にこの世から消えてゆく。

